

wadai クラブ ー学生中心の総合型地域スポーツクラブづくりー

プロジェクトメンバー

(wadai クラブ設立準備委員会)

松場浩一 岩見紗代 内田百美 大谷智子 木村祐太 谷有加 月森麻由美 廣田祥子 前田敏康
荒木祥生 細田知沙 山下桃子 木根恵子 辻耕平 西川慧 藤井美帆 中田拓慈 若林有香 山
根絵美 井上義之 内藤克己 西口舞 高橋知里 山岡純香 山口明紀 森晃平

1. 目的と目標

○目的

大学で生活していると、グラウンドや体育館など体育施設が使用されていない時間があることに気づく。この施設を有効活用した地域貢献ができないかと考えた結果、総合型地域スポーツクラブに着目した。

総合型地域スポーツクラブとは、主にヨーロッパ諸国等に見られる地域のスポーツクラブの形態で、地域住民が自主的に運営し、子どもから高齢者、障害者までの様々なスポーツを愛好する人々が参加できる総合的なスポーツクラブである。「誰でも」「いつでも」「世代を超えて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツを」楽しめる地域のコミュニティとして、総合型地域スポーツクラブが全国各地で誕生している。[1]

このように、総合型地域スポーツクラブが重視され始め、必要性が高まっている中で、wadai クラブは和歌山大学周辺地域の総合型地域スポーツクラブとして、地域のスポーツの拠点となり、スポーツの振興・普及、様々な世代間でのコミュニケーションや地域の活性化を図る。

大学の周りを見渡すと、新しい街「ふじと台」が発展しつつあり、現在すでに約 1000 世帯が暮らしている。2008 年 10 月 26 日に和歌山大学で実施された子ども祭りの参加者を対象にアンケート調査を行ったところ、調査をした人の実に 92%の人が、大学の施設の空き時間を利用してスポーツを実施することを望んでいることが分かった。さらに学生にとっても、この活動を通して様々な「力」が身に付き、自分自身も大学周辺の地域を構成している「地域住民の一人」なんだということに気づくきっかけになると考えられる。以上のことから、大学施設の空き時間を利用して地域住民と学生が交流しながらスポーツを実施できる環境を作ることは地域にとっても学生にとってもメリットのあることだと考えられる。

○目標

この活動が浸透し、地域・大学の双方に理解されると他の様々な活動とのリンクが考えられ、地域と大学の往還的連携の実現が可能になると考えられる。[2]

現在、学生が中心になって行っているクラブ運営についても、地域住民と学生が分担しあって「自分たちの地域のため」に行うという意識が生まれることが期待される。

そのために、より多くの地域住民や学生に活動を知ってもらい、考えを理解してもらうことと同時に、大学にもこの活動を理解してもらう。そして、何よりこの活動が定着することを今年度の最大の目標とする。

[1]総合型地域スポーツクラブ普及啓発用パンフレット, 日本体育協会.

[2]黒須充 (2007) 総合型地域スポーツクラブの時代 第 1 巻 部活とクラブとの協働, 創文企画, p.35.

2. 2010 年度の活動とその感想

【スポーツフェスタ】

- ・ 第 14 回スポーツフェスタ 2010/4/29 「フットサル」
- ・ 第 15 回スポーツフェスタ 2010/5/30 「ウォークラリー」
- ・ 第 16 回スポーツフェスタ 2010/6/20 「ドッジビー」
- ・ 第 17 回スポーツフェスタ 2010/8/1 「バドミントン」
- ・ 第 18 回スポーツフェスタ 2010/9/5 「ドッジビー」
- ・ 第 19 回スポーツフェスタ 2010/10/30 「スポーツチャンバラ」
- ・ 第 20 回スポーツフェスタ 2010/10/30 「ハロウィン運動会」
- ・ 第 21 回スポーツフェスタ 2010/11/23 「ドッジボール」
- ・ 第 22 回スポーツフェスタ 2010/12/23 「スポーツかるた」
- ・ 第 23 回スポーツフェスタ 2011/1/22 「スポーツ交流イベント」
- ・ 第 24 回スポーツフェスタ 2011/3/6 「餅つき」



写真右はドッジビー、写真左はハロウィン運動会

昨年に引き続き、月に1度のスポーツフェスタを定期的に行っています。今年は企画係オリジナルのフェスタを行いました。スポーツチャンバラではスポーツチャンバラ協会の方を講師に招いて親子でスポーツチャンバラを教えていただいたり、ハロウィン運動会では仮装してゲームを楽しんだり、スポーツかるたではスタッフも子どもたちと一緒に頑張って頑張りました。フェスタに来る方も親しくなり、名前を覚えてくれたり、世間話ができるようになったことが嬉しかったです。また、ビラ配りをしている時に、「あ、wadaiクラブや。がんばってね。」と声をかけてくれる方がいることは励みになります。

【特別企画】

- ・ バルーンアート教室 2010/5/8
- ・ 陶芸教室 2010/5/20

バルーンアートでは、くまを作りました。子どもたちだけではできないところを保護者の方に手伝ってもらいながら、親子で協力して作り上げることができました。

陶芸教室は美術の先生に協力していただき、大好評でした。募集定員がいっぱいになってからも申し込みをされる方が多く、ママさん向けの企画もしてほしいという声をもらいました。今年は2回しか行うことができませんでしたが、来年は積極的に特別企画もやっていきたいと考えています。

【あいさつ運動】



毎月3日間、朝7時20分から8時までスポーツフェスタのビラ回収を兼ねてあいさつ運動を行っています。回数を重ね、今や子どもたち、出勤中のお父さん・お母さんとも顔なじみとなり、あいさつ運動は地域の中でも浸透した wadai クラブの活動となりました。あいさつを元気よく返してくれる子どもたちからは、いつも私たちが元気をもらっており、スポーツフェスタを楽しみにしてくれている話を聞くと嬉しく思う。あいさつ運動を通して交流が深まっていると感じている。

【その他の活動】

- ・和歌山市子どもの体力向上支援事業 野崎西小学校 体力測定会 2010/12/4
- ・全国大学体育連合近畿支部平成22年度第2回総会・研修会 発表 2011/2/26

3. 結果と成果

○結果

本年度もスポーツフェスタを中心に活動を続けている。毎回20~30名、多いときは50名近くの参加者がいる。

学生の活動としては3回生が中心となり、企画・広報の活動をスムーズに行えるようになってきている。今年はリビングわかやまに wadai クラブの活動が取り上げられ、wadai クラブの活動を幅広い人に見てもらうことができた。

○成果

今年は目には見えないところでの成果が多かったように感じる。スポーツフェスタも回数が多くなっていく中で、お互いに名前を覚えていたり、近所のコンビニやスーパーで会うとあいさつをしたりと、ふじと台の住民の方との距離は以前に比べるとずっと近くなっている。また、今年は wadai クラブの活動に興味を示してくれる住民の方と接触する機会を得ることができ、一緒にがんばっていこうと言ってくれる方も現れた。今後もそのような方と話し合いをしながら住民の方との関わりも深くしていきたい。学生による地域住民へのアンケートの中でも wadai クラブに関心を寄せてくれる人がいることも分かったので、さらに活動を盛り上げていきたいと感じた。

教員を目指す学生が多い中で、スポーツフェスタは絶好の場であり、子どもたちとの関わりの中で学ぶことも多い。子どもたちを対象にした取り組みは自身のためになるものであり、貴重な経験となっている。

4. 今後の展開

○反省点

昨年、問題点として挙げた引き継ぎの面は1回生が積極的に参加しているので、うまくいっていると思われる。しかし、総合型地域スポーツクラブがどんなものなのか分からずに参加している学生がいるので、総合型地域スポーツクラブについてきちんとした認識をしていく必要がある。また、引き継ぎの問題はこれからも課題になっていくので、これらのことに気を付けながら、活動を進めていきたいと思う。

体育学生の参加は多いものの、教育学部の他専攻、他学部の参加が少ないため、広報活動を行ったが、参加者がなく学内での広報活動も課題となっている。

「クラブ設立」についての話し合いがあまり進んでいないのが現状であり、具体的な活動の方針を学生の間で話し合っていかなければならない。

○対応策及び今後の活動

来年度は藤戸台小学校と大学との連携が図られる予定であり、その中で、**wadai** クラブの活動が大きな鍵となると考えられる。これまで学生に大きな負担となっていたビラ配りも小学校と連携が取れることにより広報がスムーズに行うことができたり、小学校の施設を利用した活動も行える。また、小学校からボランティアの依頼があればスタッフを募って参加することもできる。小学校と連携が取れることで、活動がスムーズに行えるし、**wadai** クラブの目標のひとつである地域と大学との循環的連携に近づくことができると考えられる。そのために、学生だけでなく、大学の教員にもアドバイスをいただきながら2,3年先を見越した計画を立てていこうと思う。具体的には、会員を募り、会費を集めながらスポーツ教室を何教室か行いたいと考えている。スポーツフェスタも定期的に行いながら、「設立」を見据えた本格的な活動が来年度の大きな課題となる。